

鹿児島県の防災上の課題

課題① 離島と半島（地形上の制約）

- ・ 南北に長い
（約600km：与論島～鹿児島市⇄鹿児島市～大阪）
- ・ 多くの有人離島（28島，18万人）及び県土の多くが半島
→ 鹿児島県の防災対策上の隘路（ボトルネック）
→ 情報管理上の隘路なる可能性も保有。



課題② 地震・津波，台風・豪雨そして火山（多様な災害への対応）

- ・ 地震・津波，台風，豪雨及び火山
- ・ 火山一つをとっても
宮崎県と隣接する霧島，市街地が近接し降灰・地震等を伴う大噴火に備えなければならない桜島，離島の硫黄島，口永良部島及び諏訪瀬島
→ 災害の形態は様々その特性を踏まえた対応が要求
→ それぞれに即応できる体制の構築には融通性が不足

課題③ 情報体制（オペレーション支援としての課題）

- ・ 鹿児島県総合防災システムを主体に電話，メール，SNS等で補完する体制
- ・ 周辺機器の整備を含め逐次改善しながら対応
→ 的確な運用のためには，人の育成，システム（操用性，柔軟性，汎用性），ノウハウの継承等様々な困難な要素が存在

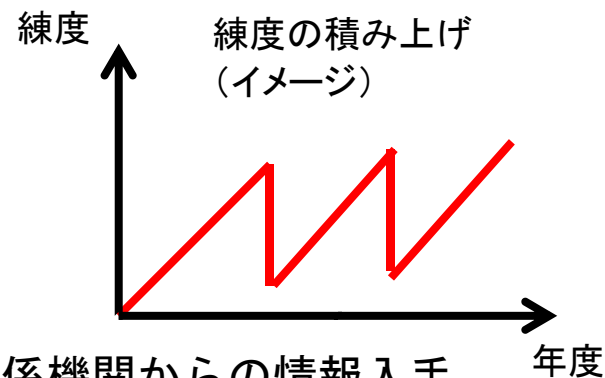


対策と懸案事項(①～③共通)

1 これまでの対策

① 情報システムの導入ほか多様な手段による情報の入手

- ・ 県総合防災システムの導入及びそれへの習熟
県総合防災システムの導入(平成28年度)
年度当初の操作研修会の実施
OJT(災害対応時)による習熟
- ・ 多様な手段の活用
自治体からのボイスによる入手, リエゾンの派遣, 関係機関からの情報入手



懸案事項: 練習度の積み上げ, 情報の統合, 隣接県との情報共有等に課題

② 特性を踏まえた訓練の実施

- ・ 多様な訓練の継続的な実施
県総合防災訓練: 豪雨, 地震, 津波 昭和38年～
桜島火山総合防災訓練: 桜島火山 昭和46年～
離島防災訓練: 離島火山 平成24年～
災害対応図上訓練: 台風(市町村) 平成29年～
- ・ 訓練における情報システムの活用
避難所状況等限定した事項のみ使用



懸案事項: 災害対策本部運営(意思決定プロセス)について練習度の積み上げに課題
システムの活用については緒についてばかり, アナログで限定的